

## 7. 定期点検

### 2. 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油してください。

#### 重要

- 油漏れ等しているときは、販売店で点検、整備を受けてください。

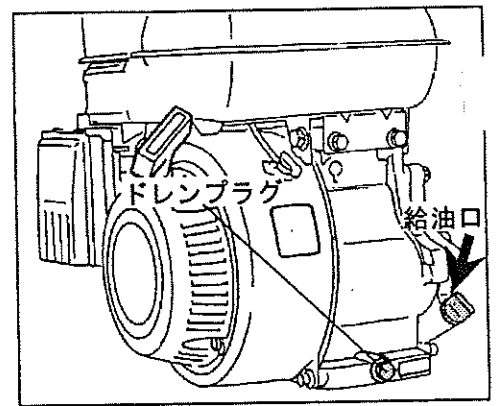
#### エンジンオイル

##### 点検

給油口の蓋を外して、検油ゲージの先端をきれいに拭き、ねじ込んだ状態で差込み、再び抜いて検油ゲージの先端より上にオイルがあるか調べます。

##### 交換

ドレンプラグを外し、給油口の蓋をエンジンオイルが吹出さないように、少しずつ加減をしながら緩め、汚れたオイルを流しだし、こぼさないように容器に受けてください。給油は、給油口より検油ゲージの規定量（0.6ℓ）まで入れてください。



#### 重要

- オイルの量は、エンジンを停止して調べてください。
- エンジンオイルはS E級以上を給油してください。
- 給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。
- エンジンが熱いうちは行わないでください。
- 熱いオイルが体に掛かると火傷するおそれがあります。
- エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。
- エンジンオイルを抜くときに、給油口の蓋を外すとエンジンオイルが吹出し衣服等を汚すおそれがあります。
- 給油するオイルは、必ず規定のオイルを使用してください。
- オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋は確実に締付けてください。

#### 推奨エンジンオイル

- 夏期(20°C以上)  
……S A E 30
- 春・秋期(10°C~20°C)  
……S A E 20
- 冬期(10°C以下)  
……S A E 10W-30

## 7. 定期点検

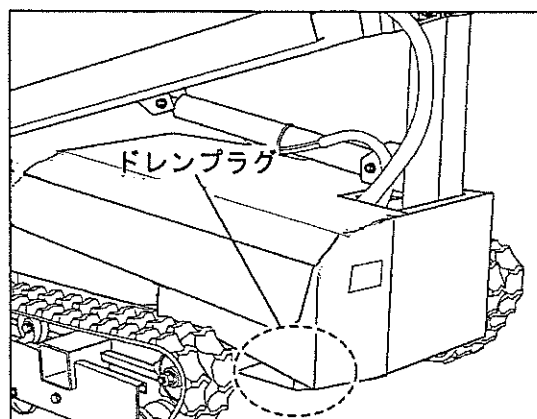
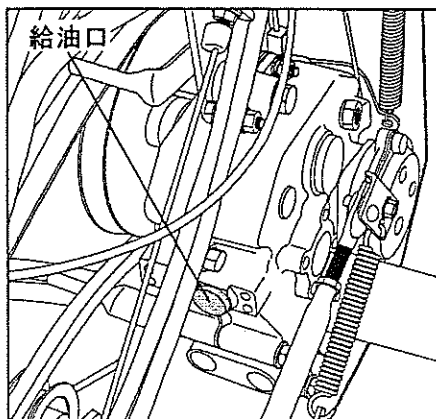
### 走行ミッションオイルの点検・交換の仕方

#### 点検

油もれのないことを調べてください。

#### 交換

走行ミッションケースの下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量 (0.6ℓ) 入れてください。



#### 重要

- 走行ミッションオイルが暖かいうちに抜くと容易に抜く事ができます。
- ミッションオイルは、ギヤーオイル90番を給油してください。

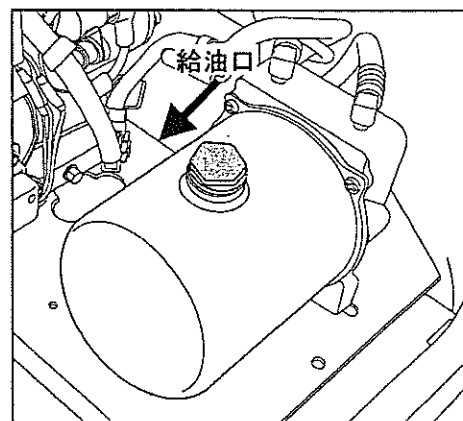
### 油圧オイルの点検・交換の仕方

#### 点検

油もれのないことを調べてください。

#### 交換

油圧パッケージのオイルタンクを外し、汚れたオイルを流し出します。給油は (1.6ℓ) 入れてください。



#### 重要

- 油圧パッケージオイルは、ISO VG68 (寒冷地ではVG32) 相当粘度のオイルを給油してください。
- 適正量は、シリンダーを縮めた状態で油面が給油口から下、約50~60mmの位置です。
- 給油を1回行うと長期間使用できますが、油量が少なくなるとエアを吸いシリンダーの作動が悪くなるので100時間ごとに油量の点検を行ってください。
- 作動油は劣化しますので300時間ごとにオイルの交換を行ってください。
- 作動油の交換は必ず新油を使用の上、ゴミ等を混入させないように給油をしてください。
- シリンダーを作動させると最初はエアが入ってノックすることがありますが2~3回繰り返すと良くなります。
- パッケージへの直接散水洗浄は水が混入して故障の原因になりますので避けてください。